

(p.p.47)

誰かが「私のいところは教授（または医者、弁護士）です」と言うのを聞くとすぐに、ほとんどの人がそのいところは男性だろうと結論づける、という事実は英語という言語とは全く関係がないが、歴史的に女性がそれらの職で数が少なかったという事実とは大いに関係がある。同様に、もし誰かが「私のいところは看護師（小学校の先生、モデル、売春婦、）です」というのを聞いたらあなたは疑いなくそのいところは女性だろうと結論づけるだろう。言語学者ソルサポータは、なぜわたしの隣人は金髪です、という文がその話し手は女性に言及している、という反応をもたらすのかを理解することはずっと簡単ではないと指摘した。これは我々の社会において女性が絶えず性的物体として利用されてきたため女性の肉体的特徴が男性のそれよりもより重きを置くと思ひこんでいる、ということに起因するものである。これは男性が使う、女性に関する言葉—それはしばしば軽蔑的であったり性的な暗示をもったりするものであるが—を分析する研究によって支持されている。そのような用語の起源は歴史を大きくさかのぼり、いくつかは軽蔑的な意味を含意しない言語で徐々にそういった意味を獲得してきたものである。それゆえ、huswif、つまり「housewife」は古英語から hussy（あばずれ女）という単語は生まれたのである。

(p.p.48)

例えばマリエルシュルツは、それらの元の仕事では、洗濯女がベッドメイキングをし、裁縫婦が縫い物を、紡ぎ女が糸車を回しており、看護婦が病人の世話をしていたと指摘した。しかし、すべて、明らかに二次的な役割をいくつかの家庭においては獲得した。というのも、すべてそれらの単語がいつの間にか女夫人または売春婦を表す婉曲表現となったからだ。

ある、多くの言語における男性語と女性語との間に対称性がないことについての驚くべき事実は、男性と女性の組単語があれば、それはほとんどの部分で無形であるのは男性形であり、拘束形態素を加えること、または複合によって作られているのが女性形であるということだ。英語にその例が多くある。

prince/princess など。（例省略）

看護師は女性であろうことが予想されているため、人は **male nurse** という表現を使う。それと同様の理由で、女医、キャリアウーマン、女性アスリートという複合語を使う。

無形の、あるいは男性を指す名詞は一般形としても使われる。それは男性形の発音も同様である。男性形の **brotherhood** は女性も含むが **sisterhood** は男性を含むことはない。

(p.p.49)

しかしながら、言語における変化は起こっており、そして社会における増加しつつある

性差別の意識を反映する。それゆえ、今日のカリフォルニア大学サンタクルズ校では議長部があるだけでなく1年生、2年生、3年生、4年生のクラスがある。言語における変化は社会における変化を追従する。希望的なことには、それらは男性の、女性の対する態度を変えるかもしれない。しかし、言語に性差別の原因はない。それは単に性差別を反映しているだけだ。

しかしながら不運なことに、上で述べられた非対称は確かに存在する。結婚にあたって女性が男性の名前を使うことは（大部分は今日の）古くの法的習慣に遡る。それゆえ、我々は女性を **Mrs. Jack Fromkin** と言ってもめったに男性を **Mr. Vicki Fromkin** ということはない。われわれが教授について話すとき、**Mrs. John Smith** と言っても、たとえあるにしてもめったに、**Mr./Dr. Mary Jones** とは言わない。さらに、**spinster**（未婚女性）とお呼ばれることはおろか、**old maid** と呼ばれることは侮辱的であるがたしかに **bachelor** と呼ばれることはそうではない。**spinster** という単語に本質的に軽蔑的なものはない。その含蓄は社会が未婚男性に対して未婚女性にもっていた異なった見方を反映している。性差別的であるのは言語ではなく社会なのである。